

演劇共同体と空間

—劇団前進座とその活動空間の分析を通して—

中谷礼仁研究室 黒田瑞仁

共同体 住宅 演劇
都市 劇団前進座 前進座劇場

序論

背景 我々は家族と家という社会を構成している単位を至極当然のものとして受け入れて来た。しかし、家族という集団が長らく拠り所としてきた血縁関係という根拠は、戦後しばしば指摘されてきた家族の解体によって逆説的に失われようとしている。ここで、吉本隆明が指摘するように¹家族が血縁者の集合ではなく幻想を担保とする共同体であり、上野千鶴子が指摘するように²家はその「家族を容れるハコ」であるとしたら、その関係性はもはや共同体と空間の重合としてしか語り得ないのではないか。また、それを語るにもその組み合わせは無数にある。本論文はこの共同体と空間の重合性を把握し、これを捉まえる新たな理論を獲得する試み³の一環である。

目的 演劇の上演を目的とする共同体である劇団とその空間の関係は、特に欧州に於いては一つの劇場に一つの劇団が所属する形態が標準とされる。一方で近代以降の日本の演劇は欧州のものをモデルとしながら、むしろ劇団とその活動空間である劇場等との関係性が流動的であることが指摘されてきた。よって本論文は日本の演劇における劇団とその活動空間の多様な関係を前述した共同体と空間の重合の事例群とみなし、その論理的把握を主たる目的とする。

対象 本論文はその目的を劇団前進座とその活動空間の分析を通して達成する。1931年に発足した劇団前進座は、現役で活動を行う劇団の中では最も古いものの一つといえる。結成直後から旅公演を頻繁に行っており、また有する敷地内での流動的な

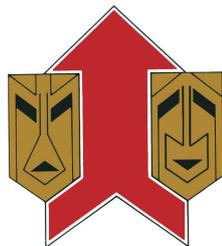


図1. 前進座ロゴ

施設活用をはじめ、さまざまな空間の形態と関わってきた。更には日本で初めて共同住宅での劇団員とその家族による生活を試みるなど、特徴的でありながらもその空間性に関する研究はあまり成されてこなかった。尚、1982年以来前進座が運営してきた前進座劇場は2013年1月に既に閉鎖された。次章以降でまず劇団前進座の演劇的活動、集団の理念、所有する敷地や施設の変遷とその利用方法の分析を通じ、その演劇共同体的特性を明らかにしていく。

本論

第一章 結成の背景と活動

1-1. 結成の背景 封建的な身分制度が敷かれていた歌舞伎界であるが、大正期には既に松竹資本の影響下にあった。特に不況の煽りの減俸とその配分方法の不透明さに下級俳優の間には不満があった。これに率先して抵抗した名題の中村翫右衛門⁴や河原崎長十郎⁵は「劇戦」⁶などの雑誌で下級俳優の不満を代弁、また芸術的な自由さも求めて村山知義⁷らと大衆座を結成して活動していた。1931年、市川猿之助⁸を中心とした春秋座⁹結成の際、松竹を脱退しこれに参加。しかし数ヶ月で猿之助の独断行動からくる内部対立で立ち行かなくなり、そのかわり同年5月に発足したのが前進座であった。旗揚げ公演では当時の歌舞伎界を風刺した外山俊平¹⁰作「歌舞伎王国」含む三演目を市村座¹¹で上演し、ここからも伺えるように下級俳優の不遇に対する不満を背景に結成されている。

1-2. 活動の概要

1-2-1. レポートリー 最初期の前進座は、伝統的な歌舞伎演目を扱わなかった。経営難に喘ぐなか、市村座の興行主から『仮名手本忠臣蔵』¹²の通し上演を勧められると、これが興行的に成功(1932)。以降は古典歌舞伎の上演を最大の特徴としながらも、大衆劇、歴史劇、翻訳劇、創作劇などを幅広く扱う類を見ない劇団として定着している。



図2. 歌舞伎十八番『勸進帳』

1-2-2. 興行 前進座はその成立経緯から当初は松竹傘下の劇場では興行を行えず、戦時中には劇場閉鎖、戦後も劇団の方針転換や共産党集団入党により大劇場閉め出しを食らうなど都市部における大劇場への出演は時期によって差異がある。それでも1950年代の一部や1980年代以降は、



図3. 旅公演の紹介記事

1981年に歌舞伎座初進出するなど、都市部大劇場での興行が盛んであった。一方、結成初期より旅興行を積極的に行い、戦時中は新劇系を中心に大多数の劇団が活動休止を迫られた中も疎開先で慰労公演を行った。戦後は青年劇場運動を興しての学校巡業、共産党集団入党後はその組織力を活用しての旅興行、近年では地方の演劇鑑賞会に誘致されるなど独自の公演先を精力的に開拓してきた。時によっては劇団を最大5班に分割し全国をまわった。劇団員の1年の半分以上は旅先であり活動における比重は多い。また、他にもPCLや東映などと提携しての映画出演や、TV番組「遠山の金さん」への中村梅之助¹³主演に代表されるようなメディア出演を行ってきた。1967年以降は研究所の大稽古場で実験的な上演を行い、前進座劇場の完成以降はここで定期的に上演を行っている。

1-2-3. 政治性的立回り 戦時中は歌舞伎と平行して"大政翼賛"的な演目¹⁴を上演し賞賛されるなど戦争協力を行なうが、戦後はGHQに『鳴神』¹⁵の上演を奨励されている。1949年には共産党に劇団員の家族含む集団入党。これを発端に1952年、巡業先で翫右衛門に逮捕状が出たため、同氏はそのまま中国に3年間亡命した。



図4. 「乃木將軍」

1960年、66年と訪中公演。1970年代以降は1968年から翌年にかけて、意見の対立から親中的になっていた長十郎を除名した。その後は入党事件で生じた障害も収まり、大劇場への復帰を果たした。

1-2-4. 運営体制 前進座はその成立の経緯から歌舞伎的な身分制や徒弟制を廃止している。折々の決議は劇団員による総会と選出代表による幹事会の決定でなされている。給料も分配性という外部出演含む全員の収入を一時劇団に集め、個々の評価に基づき分配という制度をとっている。ただし結成時はイロハ順の連盟をしたが経営難から結成翌年には旧来の歌舞伎的なスターシステムを採用。「長十郎体制、翫右衛門の鞭」と言われたように、集団の中心的な役割を果たす人物はいた。前述した長十郎の除名後は同氏の独裁を許した反省から、劇団の会社組織を統合するなどした。

第二章 劇団前進座の運営理念

2-1. 創立 前進座の創立の背景は前章の通りであるが、結成の声明書の内容は前身となった春秋座の失敗の反省が主であった。1931年5月22日に行われた創立総会の5日後に第一回総会で宣言された規約は「本劇団はその収入によって座員の生活を保証しつつ、広汎

な民衆の進歩的欲求に適合する演劇の創造に努力する」「総会は本劇団の最高決議機関にして全座員によって構成し、月一回、幹事会の消臭によって開催す」ことを骨子とし、座員の生活と演劇性、民主制に配慮したもの。

2-2. 「新演劇論」 「新演劇論」はその副題に「前進座に於ける創造上の諸問題 1953年8月総会報告全文」とあるように長十郎による関係者向けの論考である。ここで彼は当時日本には3種の劇団があり、前進座は「独立的な形ちをもって自主的に生活までまかなっている職業劇団」として。利潤や芸術優先させる他の劇団と比較しその独自性を打ち出している。

2-3. スローガン 前進座は毎年、構成員が追うべきスローガンを掲げてきた。これは内容が達成されれば減る方式で、毎年始に新たなものが追加される。内部へ向けた啓発を目的とする一方で、広

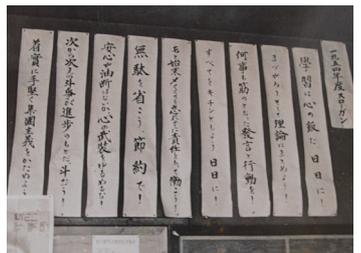


図5. 食堂の壁にかけられたスローガン

報誌¹⁶に掲載するなど外部への意思表示にも活用された。内容は主に演劇と生活に関するものとされるが、特に演劇関係に関しては"大衆"との距離感や"役者"の修行についてのものが多数。また1950年頃に最も活発に活用されたことが明らかになったが、現在はスローガンは用いられていない。1967年までの使用が確認できている。これは長十郎や翫右衛門が好んで用いたが、両名が一線を退いてからその活用が減ったもの。

第三章 前進座の施設

3-1. 前進座演劇映画研究所開設まで

旗揚げ公演を行った市村座に、結成当時は活動の軸を置いていたが1932年に前進座の稽古中に起きた火災で全焼し再建されなかった。事務所は長十郎の実家、生活も劇団員は主に借家住まいだった。そんな中、映画出演等で蓄えができた座は拠点設立を画策し、タクシー会社の経営や劇場設立の案もあったが稽古場確保を優先した。1936年、現武蔵野市吉祥寺南町に弁護士布施辰彦の協力を得て約2000坪の土地を購入。翌37年に稽古場、事務所、住宅を兼ねた前進座演劇映画研究所を開設。同時に布施の

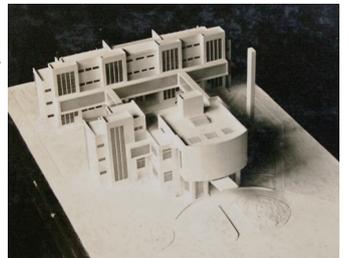


図6. RC造計画段階の模型



図7. 研究所食堂テラス

指導で劇団員が株主となり持ち株数に関係なく株主一人一票の決議券を有する前進座住宅株式会社を設立。研究所を歌舞伎王国に対抗して自ら"演劇共和国"や"演劇と生活の塹壕"と呼び、また劇団が共同生活を行うのは日本初だったため注目を浴びた。設計者は図師嘉彦。当初地下1階、地上3階建てRC造を計画したが、融資が受けられず¹⁷木造の地上2階に変更している。

3-2. 前進座演劇映画研究所の利用と変遷 研究所は稽古場、会議室、事務所、住宅、食堂、売店、風呂など建築に組み込まれた施設のほかに、敷地内では造園、畑、養鶏などを行っていた。特に中央部内に置かれた食堂にはその時々スローガンが掲示されると共に、婦人によって切盛りされることで共同生活の中心的役割を果たした。尚、共同家事で時間に余裕ができた婦人達は座の活動に協力し、給料を受け取っていた。当初建設された2棟の住宅では団員全員を収容できなかったため、1940年には地続きの土地を400坪弱購入すると共に住宅を1棟増築。1942年には離れの2階建ての長屋が1棟建設され、吉祥寺の敷地内で約50人の劇団員とその家族を収容するに至った。特にこの長屋は当時前進座出演の映画の撮影が京都であった影響で、京間で作られ、火灯窓も設けられていた。しかし同年起きた火災で本部と長屋を残し、住宅3棟が焼失。住宅の廊下伝いに火が広がった反省を活かし、再建計画の一步目として一戸建て6棟の建造に取りかかるも資材不足で停滞した。これは1945年の集団疎開を挿み、1948年に完成している。生活の場を取り戻した前進座は、1951年に敷地内に保育園を建設し、戦時中以来の食料不足で手薄になっていた食堂経営に力を入れる。その後保育園は敷地外にできた市営のもの¹⁸にその役割を譲る形で解消されている。敷地周囲に飲食店が少なかったため、婦人らが自主的に酒の飲める売店を設置していた。映画

の撮影も同敷地内で行うなどこの頃は施設の特に活発な活用がなされた。また少なくとも戦後から劇場建設までは一戸の住居に一家族と単身者数名が暮らすことも稀ではなかったが、旅公演が多く留守がちだったため生

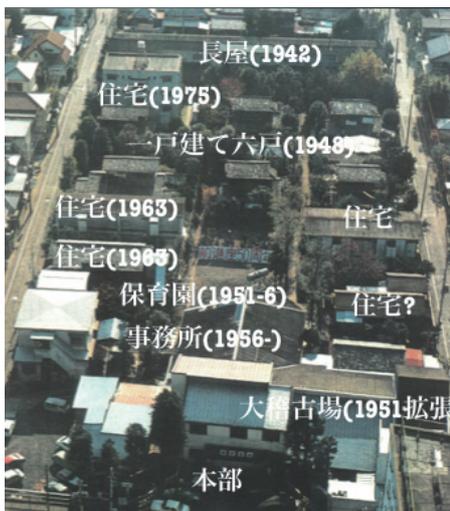


図8. 1981年時点での研究所

活上での衝突は少なかったようである。更に1970年代以降は団員数の増加に対応して住宅の増設を重ね、敷地内は建物で埋め尽くされることで流動的に使える空き地は消失している。

3-3. 前進座劇場

1982年に完成した前進座劇場は、劇団創立五十周年を期に研究所の老朽化を解決するために建設された500席規模の中劇場。資金調達のために募金を



図9. 2012年時点での前進座所有の敷地内

集めると共に、敷地の一部を市のコミセン建設用地として、また別の一区画を住宅地として売却している。また住宅専用地域である敷地内に劇場を作る特別認可のため地元と全国から署名を募った。完成後は前進座の公演の他、貸し劇場としても機能した。座の経営難から同劇場での前進座の公演が減ると次第に貸し劇場としての役割が増えていった。尚、劇場は稽古場、事務所機能を備えるも、研究所時代の食堂のような集団生活的機能はなくなっている。設計段階では食堂などを新たに設けないことも特に問題にされなかったという。また住宅群も劇場建設と同時期に新築が行われたが、やはり経営難が元で1990年頃から敷地外への転居を推奨。住宅を順次取り壊すと共に敷地内に貸しアパート¹⁹を建設している。現在では住宅1棟に幹部を中心とした18世帯のみが暮らすのみ。そして前進座は劇場老朽化を理由に2012年に劇場閉鎖を発表。閉鎖後は敷地を隣接する吉祥寺南病院の拡張のため、2013年末には引き渡しが行われる。尚、劇場取壊し後は貸しアパートと劇団員のための一棟の住宅のみを現在の敷地に残し、劇団の中心機能は稽古場兼事務所を別に設ける予定。

考察

第四章 演劇共同体の独立性

4-1. 前進座の協力者 前進座は、協力者や後援者の層が厚いことで有名な劇団である。演劇人は、前進座の結成初期から活動に関わった村山知義、伊藤熹燾²⁰、土方与志²¹をはじめ、坪内逍遙²²、真山青果²³、千田是也²⁴、三好十郎²⁵、井上ひさし²⁶など。場合によっては互いに対立関係にあった人物達が前進座の公演に演出をつけ脚本を書き下ろしている。その他政治家や、松竹、東宝、東映など多くの企業との提携関係があった。

4-2. 前進座の独立性

4-2-1. 芸術・資本の独立性 なぜ、前進座は80年以上継続し、またその協力者を広く獲得してきたのだろうか。政治的背景も関係するもののその原因の一つは前進座の独立的な立場にもあったと考えられる。まず資本的な独立。特定の資本の支配下になく、上演演目や提携資本選択の決定権を有した。松竹支配下でない歌舞伎の独立劇団による継続的上演への文化人の期待があったと思われる。またそもそも前進座は下級歌舞伎俳優の生活難から発生した劇団のため、構成員の生活保証を他に優先した。これが柔軟な姿勢を生んだ反面、戦争協力にも繋がるが、独自の巡業収入開拓の根拠になった。芸術的な独立にも注目したい。芸術的方向性を示すスローガンは主に"大衆との結びつき"と"役者の技術向上"をうたい、端的な理念は掲げていない。加えて演出家という役割が明確でない歌舞伎出身の俳優らが中心だったことが多数の演出家、脚本家との連携を可能としたと考えられる。実際前進座は対立の度に統廃合を繰返す新劇系の劇団を尻目に治外法権的な立ち位置にあったのではないか。営利や芸術ではなく劇団員の生活を保障する、まさに職業劇団的な利点だといえる。建築家ブルーノ・タウトはその著書²⁷の中で前進座を、「私の知る限りでは、日本の伝統演劇と同時にすぐれた国外の舞台の根本的な研究から出発して、発展の道程を進まんとあらゆる努力と試みをしめしている唯一の劇団」で、「一座は砂漠におけるまことに数少ないオアシスのひとつ」とし、この特徴を端的に表現している。

4-2-2. 空間の独立性 1930年代にいわば職住一体の演劇映画研究所を畑ばかりの吉祥寺に完成させたことは前進座に空間的、共同体的な安定をもたらした。この職住一体の環境と歌舞伎という職業の特色が重なり、職業集団としても効率的に構成員の補充を行うことができた。また都心から距離を置き、時には都市部を避けて興行できたことも選択の幅を広げているといえよう。しかし、戦後60年頃から畑、食堂、居酒屋そして食堂という集団生活において個々の生活と演劇業を結節する機能が敷地から消えていった。これを可能にしたのは戦後急激に進んだ吉祥寺の商業地域化・都市化であった。そして前進座劇場の完成は敷地内で職業と生活の分離を意味したのと同時に、この場所が劇場という公的機能を担うことで都市の一部となることも意味していたのである。近年では次世代の入座希望が少ないのが悩みだという。その後に住宅機能も敷地外に出た。これは戦後指摘されてきた家族の崩壊過程と重なるものである。ここに生活共同体の崩壊と都市化との関連性が確認された。

4-3. 演劇的共同体の独立性

アングラ演劇運動の旗手の一人、鈴木忠志が主宰する早稲田小劇場²⁸が活動の拠点を東京都内から富山県利賀村に移転したのは1976年。奇しくも前進座が生活共同体的な側面を解消していた最中であった。鈴木は劇団の芸術性の保全を最優先と考え、東京とそのジャーナリズムから独立するために山奥の過疎地での集団生活と独自の演劇的手法を活用している。現在、首都圏に数千あるとされる演劇組織の多数は固定のメンバーを持たないプロデュース・ユニット形式である。その中でも成因の流動を抑えている劇団は、例として唐十郎の唐組は仮設のテントで公演を行い、新制作座²⁹は八王子郊外に拠点を構えるなど、都市からの独立を獲得している。以上より演劇共同体の保全には都市からの独立が重要な条件であることが明らかになった。



図10. 鈴木忠志の独自の演劇性

結論

劇団前進座の活動を項目ごとに整理し、その所有する土地および施設の変遷を明らかにした。これを通じて劇団前進座の集団的特徴がその職業性にあること、また都市空間との影響関係を明らかにした。最後に、特に首都圏で活動する演劇共同体の保存性と都市との関係を見出した。

謝辞 本論文の執筆にあたり、劇団前進座の山口誓志様には前進座劇場の案内、同じく丸橋恒夫様には聞き取りに応じいただきました。厚く御礼申し上げます。

注釈 1: 吉本隆明『共同幻想論』河出書房新社,1968 2: 上野千鶴子『家族を容れるハコ 家族を超えるハコ』平凡社,2002 3: たとえば、伊藤杏奈「歴史のなかの群居 - 生活共同体と建築の相関関係に関する研究 -」早稲田大学院建築史研究室修士論文,2012 4: 中村新右衛門 三代目中村新右衛門 (1901 - 1982) 5: 河原崎長十郎 四代目河原崎長十郎 (1902 - 1981) 6: のちに「演劇裏表」と名を変えた。 7: 村山知義 (1901 - 1977) 戦前戦後に活躍した劇作家、演出家、美術家、舞台美術家、小説家。 8: 市川猿之助 二代目中村新右衛門の次男市川猿翁。(1888 - 1963) 9: 第二次春秋座 10: 村山知義の変名。 11: 江戸にあった歌舞伎劇場で、江戸三座のひとつ。 12: 二代目竹田出雲・三好松洛・並木千柳の合作。忠臣蔵物。 13: 中村梅之助 四代目中村梅之助。三代目中村新右衛門の子。2013年2月現在劇団前進座代表。(1930 -) 14: たとえば、「不沈艦撃沈」。 15: 『鳴神』三升屋兵衛作のものが濫觴。歌舞伎十八番のひとつ。女が神通力を破る様子からGHQから民主的な演目と推奨された。16: 前進座発行「月刊前進座」。17: 土地を抵当に入れる場合、RC造では取り壊しに費用がかかると拒否された。18: 武蔵野市立南保育園 19: アヴァンティ吉祥寺 20: 伊藤薫朔 (1899 - 1967) 舞台美術家。没後舞台芸術の賞として伊藤薫朔賞がある。前進座のロゴをデザインしたほか、舞台美術を担当した。 21: 土方与志 (1898 - 1959) 演出家。小山内薫と共に築地小劇場を開設。社会主義リアリズム演劇を提唱。最晩年まで前進座に関わった。 22: 坪内逍遙 (1859 - 1935) 明治期の小説家、評論家、翻訳家、劇作家。結成初期の前進座を激励した。 23: 真山青果 (1878 - 1948) 劇作家、小説家。自然主義作家として登場するも新派の座付作家となる。前進座は真山の『元禄忠臣蔵』を通し上演し、映画化した。 24: 千田是也 (1904 - 1994) 俳優、演出家。俳優座創立メンバー。初代表。新右衛門の裁判でその弁護に尽力するなども前進座と親交があった。 25: 三好十郎 (1902 - 1958) 小説家、劇作家。代表作『炎の人』。左翼演劇に反撥するも前進座と親交があった。 26: 井上ひさし (1934 - 2010) 小説家、劇作家、放送作家。劇団「こまつ座」を立ち上げた。前進座の文化人による後援会である矢の会に参加。 27: ブルーノ・タウト 森佛郎訳『日本文化私観』明治書房,1940 28: 早稲田小劇場 1966年結成。1984年よりSCOTに改名。 29: 真山青果の長女、真山美保らが創設した劇団。旅巡業を主とし独自の拠点を持つ。 **図版典拠** 1:『グラフ前進座』前進座,1975 2:河原崎長十郎『歌舞伎入門』高文堂,1975 3:『月刊前進座 216号』前進座,1968 4:大曾吉雄『日本現代演劇史 昭和編中編』白水社,1995 5:6. 前進座蔵 7:『演劇映画研究所記念(インフレット)』前進座,1936 8:『月刊前進座 372号』前進座,1981 9:筆者加筆 9.bing.com/maps 2012.ZENRIN 10.鈴木忠志『演劇論 越境する力』PARCO出版,1984